

[平成21年第 2回 6月定例会-06月18日-01号]

◆22番（松坂知恒議員） おはようございます。

市民連合の松坂知恒でございます。しばらくの間、御清聴よろしく願いいたします。

財団法人広島市動植物園・公園協会の経営状況のうち、広島市安佐動物公園、広島市植物公園、昆虫館の三つの施設について、お尋ねいたします。

同僚議員より、これらの施設について、さまざまで、かつ建設的な提言がなされ、施設の側もこれにこたえて、来場者の増加に努めた結果、長期低落傾向にあった来場者数が上昇していると聞いております。

私は最近、この施設を訪れ、時間をかけて展示を見て回りました。どの館の展示もそれぞれにおもしろく、飽きない構成になっていました。動物園では、幾つかの動物のえさやりタイムがあり、ふだん見られない生態を見ることができました。植物園では、四季それぞれに花が咲きますが、今、見ごろの花は何か、タイムリーな情報が提供されていました。昆虫館は、巨大なヘラクレスオオカブトムシを学芸員の方が子供たちにさわらせながら、親子の質問に丁寧に答えていました。みんな興味を持って解説を聞いていました。

私が気づいたことは、動物のいるスペース、植物が生えている場所、そして、昆虫が展示されている部屋においては、これらの生物に関する情報は盛りだくさんで興味を引く、おもしろい展示になっていました。

一方で、これらのおもしろい情報がホームページの上であるとか、あるいはそれぞれの施設の入場口などにないため、せっかくの情報が読み取れません。人気が出ている夜間の開園などの、さまざまなイベントについても情報も余り掲載されていません。

また、動物を身近に見ることができるような施設の改善が、ミーアキャットやレッサーパンダといった人気の動物スペースでされていますが、せっかくのそういう情報がホームページには掲載されておりません。レッサーパンダの施設の改善は、ガラス張りになった新しいスペースでえさをもらうところを見てもらおうというねらいですが、何時からえさやりをするのか、ホームページにもなければ入場口にもなければ、レッサーパンダがいる施設にも表示がなく、朝から閉館まで私は園内にいましたが、結局えさやりを見ることはできませんでした。園内で時間の表示があったヒヒ、ヤマアラシ、カウソウのえさやりを見ることはできましたが、1日の開園中1回しか見られないのですから、ほかの動物のえさやりについてもホームページや入場口に表示して、多くの来場者に動物たちのさまざまな生態を観察してもらいたいと思います。現場の職員の皆さんの努力で、来場者数も上昇傾向にあると聞いております。せっかくの情報です。しっかり発信していただきたいということを提言したいと思います。

話題の旭山動物園などは、年間304万人の来場者がありますが、1棟が数億円もする動物舎を毎年建設して、おもしろい展示にしております。それに対し、広島市の三つの施設

は、それぞれ郊外の山懐に抱かれており、広島を自然を生かし、それと調和した動物、植物、そして、昆虫の生きている姿を展示し、市民だけでなく、広くたくさんの人たちに見てもらいたいと思います。

そこで、お尋ねします。

1、平成 18、19、20 年度の入場者数は三つの施設でそれぞれ何人だったのでしょうか。また、過去最高の入園・入館者数は何年度で、それは何人だったのでしょうか。

2、20 年度の経費から収入を引いた損益額は、3 館それぞれ幾らだったのでしょうか。

3、近年、各館で集客のために新しく開始したことは何でしょうか。

4、過去最高の入場者数に復帰するために、どのような取り組みをこれから進めていけるのでしょうか。

これで質問を終わります。御清聴どうもありがとうございました。

○藤田博之 議長 経済局長。

◎藤本誠 経済局長 昆虫館について、御答弁いたします。

昆虫館の入館者数は、平成 18 年度で 9 万 5950 人、同じく 19 年度で 9 万 3982 人、平成 20 年度が 9 万 7935 人となっています。開館以来、最も入館者が多かったのは、実質的な開館初年度の平成 2 年度で 30 万 2286 人となっています。

次に、平成 20 年度の損益額ですが、管理に要した経費は 1 億 702 万 5000 円となっています。入館料の収入が 1656 万 4000 円となっており、経費から収入を差し引いた額は 9046 万 1000 円となっています。

次に、入館者をふやすためにとっての最近の取り組みについてですが、平成 19 年 8 月から、昆虫館、安佐動物公園、植物公園の 3 園共通年間パスポートを導入しています。また、平成 20 年度からは、春休み、ゴールデンウィーク、夏休み期間中等の臨時開館日をふやすとともに、夏休み期間中の開館時間を延長し、さらには 8 月、9 月には夜間開館を実施しました。また、これらの取り組みと連動して、夜に活動するさまざまな昆虫を観察する昆虫ナイトウォーク、森林公園内の四季折々の虫を観察する「季節の虫さがし」など、人気の高い体験型イベントの充実に取り組みました。

今後、さらに入館者をふやしていくための取り組みについてですが、これまでの利用促進策を継続、強化していくことに加えまして、今年度から、親子で自由に昆虫に触れることのできる「親子で虫タッチ」や、リピーターの増加策として、各種イベントの参加回数に応じて昆虫にちなんだ景品がもらえるスタンプラリー「虫だいすきキャンペーン」を実施しています。

また、ミヤジマトンボなど、絶滅危惧種の生体展示や自然環境と昆虫の生態に関する展示を開催するなど、これまでの研究成果の公表も積極的に行ってまいります。今後とも、魅力あるさまざまな展示を年間を通じて実施するとともに、こうした各種の取り組みをホームページやマスコミへの情報提供などを通じまして、積極的に PR することにより、より多くの方々に来館していただける昆虫館づくりに努めてまいります。

○藤田博之 議長 都市整備局長。

◎荒本徹哉 都市整備局長 動植物公園について、お答えいたします。

安佐動物公園の入園者数は、平成 18 年度、2006 年度が 48 万 4541 人、平成 19 年度、2007 年度が 52 万 6740 人、平成 20 年度、2008 年度が 57 万 4676 人となっております。また、植物公園につきましては、平成 18 年度、2006 年度が 17 万 35 人、平成 19 年度、2007 年度が 18 万 8889 人、平成 20 年度、2008 年度が 21 万 193 人となっております。開園以来、最も多かった入園者数は、安佐動物公園が昭和 62 年度、1987 年度の 66 万 4028 人、植物公園が昭和 52 年度、1977 年度の 43 万 7723 人であります。

次に、20 年度の損益額についてです。

財団法人広島市動植物園・公園協会が安佐動物公園の管理運営に要した経費は 6 億 1407 万 3000 円で、入園料及び駐車場使用料の収入額は 1 億 9266 万 9000 円となっております。これを差し引きいたしますと 4 億 2140 万 4000 円となります。同様に、植物公園の管理運営のために要した経費は 4 億 2824 万 5000 円で、入園料及び駐車場使用料の収入額は 6307 万 7000 円となっており、これを差し引きいたしますと 3 億 6516 万 8000 円となります。

次に、最近の取り組みについてでございます。

安佐動物公園では、平成 16 年度、2004 年度から本格実施したナイトサファリを初め、ふだんは見ることのできない動物舎を案内するバックヤードガイドや、こども動物園でのポニー体験乗馬などのイベントを積極的に開催するとともに、平成 19 年、2007 年 8 月から、安佐動物公園、植物公園、森林公園昆虫館の 3 園共通年間パスポートの導入にも取り組んでいます。

また、より魅力的な施設にするため、動物をより身近に感じられるような展示施設の改良等を行うとともに、カープ球団との連携グッズ、クマのクラウドの縫いぐるみなど、新たな土産品の開発も行いました。植物公園では、夜の植物公園の魅力を体感していただくための夜間開園を実施するとともに、さくらまつり、サマーフェア、秋のグリーンフェア、春をよぶランまつりなど、四季を通じてイベントにも取り組んでいます。さらに、冬になっても葉が落ちないヤマコウバシの葉を利用した合格祈願のしおりや、オリジナルの木製携帯ストラップ、木製ペンダントなどの土産品の開発も行いました。

最後に、今後の取り組みについてでございます。

これまでの取り組みによって、最近の安佐動物公園及び植物公園の入園者は増加傾向にあります。今後も引き続き、両園において、より多くの方々に来園していただけるよう、四季を通じて来園者のニーズに合ったイベントを企画、開催するとともに、安佐動物公園におきましては、動物が身近に感じられるような展示施設の改良に取り組んでまいります。さらに、これらのイベント情報や 3 園共通年間パスポートについて、ホームページや他の広報媒体を活用した PR を積極的に行い、リピーターを含め入園者の増加に努めてまいります。今後とも、市民を初め、利用者の方々に愛される魅力ある動物園、植物園づくりに努めてまいります。

以上でございます。